

広聴特別委員会記録

平成30年1月26日

【開催日】 平成30年1月26日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時25分

【出席委員】

委員長	長谷川 知司	副委員長	宮本 政志
委員	伊場 勇	委員	奥 良秀
委員	杉本 保喜	委員	高松 秀樹
委員	中岡 英二	委員	中村 博行
委員	藤岡 修美	委員	松尾 数則
委員	吉永 美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

なし

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

事務局次長	清水 保	主査兼庶務調査係長	島津 克則
-------	------	-----------	-------

【付議事項】

- 1 委員長の辞任について
- 2 議会報告会について

午前10時 開会

宮本政志副委員長 皆さんおはようございます。ただいまから広聴特別委員会を開会します。

清水議会事務局次長 本日お配りしています議事日程に誤りがございましたので訂正を先にさせていただきたいと思っております。付議事項の1で委員長の

互選についてと書いておりますが、これは委員長の辞任についての間違いでございます。申し訳ございません。訂正していただきたいと思いません。

宮本政志副委員長 杉本委員長から一身上の都合により辞任願いが提出されましたので、暫時私が委員長の職務を代行します。それでは委員長辞任の件を議題といたします。お諮りいたします。本件は申し出のとおり辞任を許可することに御異議はございませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）異議なしと認めます。よって、申し出のとおり杉本委員の委員長の辞任を許可することに決しました。

（杉本委員入室）

宮本政志副委員長 次に委員長が欠員となりましたので、委員長の互選を行います。委員長の互選は指名推選の方法により行うか、それとも投票により行うか、お諮りいたします。

高松秀樹委員 指名推選でお願いします。

宮本政志副委員長 ただいま高松委員から指名推選がよいとの意見がありました。御異議ありませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）異議がないので、指名推選の方法に決定しました。推選を受けたいと思います。どなたか推選はありませんか。

高松秀樹委員 長谷川委員を推選いたします。

宮本政志副委員長 ただいま高松委員から長谷川委員を委員長に指名推選することの発言がありました。ほかに推選される方はおられますか。（「なし」と呼ぶ者あり）ほかにないようですので、長谷川委員を委員長に指名いたします。御異議ありませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）異議なしと認めます。よって長谷川委員が委員長に当選されました。ただいま委員長に当選されました長谷川委員より、就任の挨拶をお願いいたします。

長谷川知司委員 ただいま委員長に推薦いただきました長谷川です。私も2年間ほど広報広聴委員会の委員長をさせていただきましたので、大変重要な役割というのは分かっております。分かっているがゆえに、逆に固定観念があるかもしれませんが、そこは、皆様方の意見を聞き、新たな広

聴特別委員会を進めていきたいと思いますので、御協力よろしくお願
い
します。

宮本政志副委員長 委員長と交替いたします。

(長谷川委員 委員長席へ)

長谷川知司委員長 議事に入ります。議会報告会について、前回、様々な提案
がございました。会派に持ち帰り、あるいは皆様方が意見をまとめて、
今日出席していただくようにと依頼しておりました。今、伊場委員から
資料をいただきました。これをお聞きして、違う方の意見も聞くという
ことでよろしいでしょうか。(「はい」と呼ぶ者あり)伊場委員お願
い
します。

伊場勇委員 素案を自分なりに考えて持ってきました。前回の委員会の内容か
ら、私も市議会の議会報告だけではなかなか集客が見込めないというの
と、議会をもっと市民の方々に親しみやすく受け止めていただきたいと
いうことで、考えて持ってきた素案です。議会報告会を会の中ではしま
すが、ネーミングという検討素材がありましたので、私なりに考えて「市
議会プレゼンツまちづくりオープン」、「まちづくりだよ、全員集合」と
いったほうが親しみやすいのではないかとこのころです。プログラ
ムの内容については議会報告会を30分。バズセッション、下に概要が書
いてありますが、6人から10人ぐらいの分科会を作って、輪になって、
活発な意見をその中で話し合ってください。市民からざっくばらんな意
見
聞けるのではないかと。そして会が盛り上がるのではないかと思いま
して、そういう手法をとります。そして分科会での意見を全体で発表し、
最後にアンケート記入を5分間の時間をとりまして、閉会ということに
したらどうかと思います。3ページが集客の方法です。公民館等で今ま
でやってこられました。違った手法もどうかと思いまして、イベン
トやお祭りなどのコラボレーション企画として、その中に市議会ブ
ースを作ったり、まちづくり相談ブースなどを作ったりして集客し、そ
こ
で議会報告も行うということはどうかと思いまして、地域で一番人が集
まるのは地域のお祭りだと思ふんですが、その中で議会報告会をさせ
て
いただくのはどうかというのが一つです。場所は人が集まる土日のサン
パ
ークであったり、子育て支援センターであったり、学校であったり、タ
ー
ゲットを絞った集客として子育て世代のみの報告会。議会報告会とい
う
と壁があると思いまして、同じ悩みを抱えた子育て世代の方々が集まると

なれば、その世代の方も来やすくなるのではないかと思います。その内容も子育てについてのこれからの市の施策などを話し合ったり、報告したりしたらいいかなと思います。福祉関係も介護施設での開催や、学生に対しても中学校、高校、大学など、学生の方々も積極的に興味を持っていただくような、ターゲットを絞った企画、趣旨としてやっていけばどうかと思ひまして、素案を作りました。

長谷川知司委員長　ここまで提案していただくのは大変であつたらうと思ひます。ありがとうございます。これについて検討すべきことはありますが、今日は意見を聞くということにしたいと思ひます。ほかに意見があればお願いします。

奥良秀委員　新風会3人で話をしました。15日の広聴委員会でネーミングは変えて、皆さんが来やすいように、垣根がない、ネクタイを外して話せるようなところで話をさせていただきたいということで、名前は変えようということでした。議会報告会というのは硬すぎるので、その後何かがしかの文言を付けて、人が集まり、物が言える名前にしたい。短い期間だったので、ネーミングまでは決まっていますが、今後詰めていきたいと考えています。時間帯も午前、午後いろいろありますし、平日、週末もありますが、多種多様な方を呼んでいきたい。子育て世代の人であれば土日がいいのかなとか、高齢の方は10時、11時ぐらいで、あとは3時ぐらいに集まって、お茶でも飲みながらざっくばらんに話ができればいいのかなと思います。ただ、何にしても議会報告会は人が集まっていたらいい、広く市民の方に議会でこういうことをしていますよということ言うのが一番の課題だと思います。補足ですが、先日、議運でもモニターからいろいろ的確な御指摘もいただいておりますので、そういったものも広聴委員会の中で取り入れて、モニターの気持ちにも応えていけるような広聴委員会を作っていかななくてはいけないかなと思ひております。

中岡英二委員　新政会から報告します。先日会派で話し合いを持ちました。ネーミングに関して、議会報告会は未来を語る会ではないかなと思ひまして、以前の話合いの中で市民という言葉を入れたらどうかということがありましたので、「市民と未来を語る会」というネーミングを考えました。意見交換の内容は決めるべきではなく、来られた方を見て、高齢者が多いのに、子育てのことを話しても、余り関心がないのではないかな。来られた方の興味のあるようなことをテーマにして、その話し合いを有意義なもの

のにしていったらどうかということがありました。意見交換の仕方ですが、何人でやるのかは決めてはおりませんが、四、五人の方と議員が間に入りまして、小さなサークルを作って、そういう中で話合いを持っていったらどうかというのはありました。意見交換をする対象は来られた方で、いろんな方に来ていただくことが一番のことだと思います。対象を絞らず、広く話合いの場を持っていければと思います。そういう意見が出ました。話合いに来られて、その話の内容が、次の話合いの機会に、どのように解決していったか、どのような対策を持ったか、そういうものを話していける場にしていければいいなと思っております。

藤岡修美委員 前回の委員会でもデマンド交通という話をさせていただきました。行政視察に各議員が行っておりますが、その発表の機会がホームページに少ししか出ていないので、皆さん勉強されたことを伝える機会があったらいいなと思っております。この最近を見ると、公共交通、デマンド交通について、たくさん視察に行かれていますので、是非市民の皆さんに伝える機会があったらいいんじゃないかと思っております。回数的には、定例議会後の4回でもいいかなと思っております。ただ、場所を各中学校区で1回ごと回っていくか、年4回という形で、地区を絞って、2年掛ければ全部回れると思っております。そういう形をとれば、アクセントがある程度ついて、その地区の方と直接接する機会も増えますし、そういう形はどうかという提案です。

長谷川知司委員長 中学校区を回るというのは、定例会後にするときに、中学校1校区だけにすることですか。

藤岡修美委員 そうです。2年に1回しか回れないですが、そのぐらいのほうで皆さん来られるのではないかという気がするんです。

中岡英二委員 言い忘れたことが1件ありました。開催回数は今までどおりで、モニターさんの意見にも出ていましたが、条例どおり、議員が決めたことはそれを守ってやるべきではないかということで、回数の変更は考えておりません。

藤岡修美委員 補足ですが、各中学校区でやるといっても、ほかの校区の方が見えても大丈夫なわけで、そういうつもりでした。

中村博行委員 メールで送ってこられた検討事項に沿って申し上げます。意見

交換の内容、テーマですが、様々あるだろうということで、その折に応じてやったらどうかということで、市の未来、投票率、地方創生、地域づくり、青少年育成、中学校卒業ぐらいまでを一つのスパンとした子育てについてのテーマを設けたらどうかということです。意見交換をする対象としては山口東京理科大学の大学生、先日中学生市議会がありました。高校生を対象にいかがでしょうかという提案が早くからありました。それについても進学、就職があるので、2年生を対象にやったらどうかという意見でありました。また、報告についてはしなくてはいけないだろうと思います。その内容ですが、これは各委員会から挙げたものを精査し、広聴委員会でピックアップして、伊場委員から提案がありました、議会報告会30分に収まる内容に広聴委員会で精査したらどうかということです。時間は今の1時間半が妥当ではないかと思えます。ほかのことについては時間の関係で余りできませんでした。

吉永美子委員 話は余りしてなくて、私に任せていただいています。以前から申し上げているとおりネーミングは変えるべきということで、「市民」という言葉を入れるべきではないかという意味では、「市民と未来を語る会」というネーミングは大変いいなと感じました。回数としては定例会ごとに行うということ。6会場にこだわることはなくていいと前の委員会のときから言っていますけれども、市内全域を1若しくは2という形でして、先ほど聞きながら思いましたが、相手を絞るというときには、それプラス1という形で考えたほうがいいのかと思いました。例えば、市内全域で1会場やって、報告すべきものを報告し、意見交換することプラス、相手を絞るということにしないと、いつも来てくださる方々が、自分たちは来られないのかということにもなりかねないので、私は1若しくは2会場やったプラスの、例えば、高校生ターゲット、今回は大学生をターゲットという形で、別でしたほうがいいのかと思っております。先ほど伊場委員からいろんな知らなかったことも教えていただき、新たな広聴特別委員会の役割が更に広がるなという思いで、うれしく思いましたし、これからも議論したいと思えます。

長谷川知司委員長 新鮮で良い意見が出たと思えます。これをまとめてどのような形にしていくかということが、今から大変だと思います。今から絞っていきたいと思えます。そういう方法で進めていいですか。前回の議会報告会についての検討では意見交換、報告、全体ということで皆様方にお聞きしておりましたが、まず全体をどうするかということを決めないと細かいことに入れたいと思えますが、全体的にはどうなのかという

ことで、最初にネーミングから入っていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。提案がありましたのが「市民と未来を語る会」というのがどうなのかということと、伊場委員からは「まちづくりだよ全員集合」というのも出ております。新鮮でいいと思いますが、何かあれば。今決めたから、絶対これをやっていくんだということも大事ですが、必要に応じて変えていくということも大事ですから、余り硬く考えなくていいと思います。ネーミングは今決まりませんか。ネーミングは置きます。

中村博行委員 先日、高松委員から出ていましたが、議会報告会は絶対しなくてはいけないんだと思います。そうすると「議会報告会プラス何とか」というようなネーミングもあっていいんじゃないかという気がします。

長谷川知司委員長 例があれば言ってください。

高松秀樹委員 基本的に議会報告会は条例に位置付けられていると思います。ということは議会の報告という文字は必ず必要なんだなと思います。伊場委員の例を見て、メインタイトルをこういうふうに挙げ、サブタイトルとして「市議会の報告と何とか」と挙げ、これがいわゆる議会報告会だと捉えられれば、それはそれでいいんじゃないのかなと思います。過去の反省は「議会報告会」と入れるから漢字しかないの、市民の皆さんもとっつきにくいなことなので、メインとサブという形でもいいのかなという気がしています。

長谷川知司委員長 メインとサブもいい考えだと思います。ここで決めてしまうと固まってしましますので、ネーミングは後に置いておきます。毎定例会後に行うのかどうかについて、皆さんの意見をお聞きしたいと思います。年4回定例会がありますが、その後にやったほうがいいよと、いろんな形があるとは思いますが、これについて意見ございますか。

吉永美子委員 先ほども定例会ごとと申し上げましたが、逆にこの中で定例会ごとじゃなくていいよと言われる意見はありましたか。

長谷川知司委員長 ないです。

吉永美子委員 だから、定例会ごとということで、皆さん異議なければそれでいいんじゃないですか。

長谷川知司委員長 吉永委員が言われましたが、定例会ごとに行うということで、形は変えてもいいと思いますが、そういう方向でいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）そういうことで、毎定例会後に行います。開催場所、開催回数、開催時間はどうするのかということを含めていきたいんですが、皆さんの意見では、開催場所も様々な状況に変えていいんじゃないかというのがございました。これについてはどうでしょうかね。

高松秀樹委員 開催場所ですが、開催場所と集客に大きな関連性があるのか。僕はないと思っています。例えば、家もない山奥でやりますというのは問題があるんですが、今までは公民館等でやっていますので、基本的に場所が公民館だから人が集まらないというふうには思っていない、僕のは感じはですね。伊場委員が言われたサンパークというのは非常に人が集まる場所ですけど、人が集まる場所と、報告会に積極的に来られるというのは別問題のような気がします。内容の問題で人が集まる、集まらないというふうに僕はいつも思っています。

長谷川知司委員長 過去の例から見ますと、学校給食、議員定数など市民が興味を持った問題であれば、結構人は集まっているんです。市民が興味を持つようなテーマがなければ10人前後であったと記憶しております。場所も大事ですが、テーマも大事ではないかということでした。場所はいろいろ変えていっていいと私は思います。

奥良秀委員 私の考えとしては報告会もあって、皆さんと意見を出し合って話す場所なので、秩序が保たれる、今までどおりの場所のほうがいいと思います。商業施設などは、下手をすると収拾がつかなくなるのかなと思います。飛び入りなどがあると、まとめられるものもまとめられなくなるという懸念があるので、どうかと思います。場所を絞って、テーマも子育て世代や若者に集まってもらいたいと考えていますので、30代、40代の方々が来やすいようにテーマを絞って、ときには報告会をやって、その後ディスカッションとして子育て世代が集まって、今回はやりましょうとか、今回は福祉の関係で60歳、70歳の人が集まって、福祉とかのことを考えていきましょうというように変えていけばいいんじゃないかと思います。補足ですが、若い人と年を取られた方というのは話題、課題が絶対違うはずなんです。そういったものを分けて、たまには融合してというふうな話し合いを持っていけばいいと私は考えています。

松尾数則委員 新しい議員がいっぱい入って、内容もだんだん面白くなってき

たなという気がしています。例えば、サンパークでやるとか、祭りのときにやるとか、それはそれ向きのテーマのときにやるというぐらいにしたほうが良いと思います。もともと議会報告会は、議員が活動を知らせ、皆様から意見を聞いて、それをこれからの議員活動に生かしていくというのが大きな目的だろうと思いますので、余り輪を広げたりすると、その辺の意見の集約ができにくくなるだろうと思っています。今までは公民館ごとにやってきましたけれど、その内容について、テーマを絞れば、もう少し人も集められると思いますし、これからはふさわしい議会報告会になっていくんじゃないかなという気がしています。

長谷川知司委員長 今までの議会報告会は報告会がメインでした。皆さんの意見の中で報告会も大事だが、その後の意見交換も大事なんだ。そちらのテーマを様々に変えることで人が集められるということだったと思うんですね。それはいい提案だと思います。今後、開催場所は今までのところを中心になるかも分かりませんが、中身を変えていくんだということで理解したいと思います。開催回数については今まで6会場でしたが、これについて意見があれば。サンパークでする場合、ほかはしないよということでも良いと思います。2会場でやったこともございますので、普通は6会場でやっていますが、どうでしょうか。

中岡英二委員 回数に関しては、私たち新人議員の、市民の皆さんに顔を売るという形をとりたいので、6回は最低やられてもいいと思います。伊場委員の人が集まる場所での開催、すごく私興味を持ったんですけど、子育て支援センターだったら子育てに関心がある方が集まるだろうと思います。学校でやるということは、学校関係のテーマを持って行ったら、より人が集まると思います。サンパークに関しては私も収拾が付かなくなったら困るなということで疑問符なんですけど、やはりテーマに合わせてそういう場所でやるということは、すごく集客にはつながっていくんじゃないかなと思います。

長谷川知司委員長 子育てについては、意見交換会という形でしたけれど、これは6回という形にこだわらず、児童館や保健センターに出掛けて行って、お話を聞いたことがございます。

高松秀樹委員 委員長が言われる子育て支援センターでお話を聞いたことがありますというのは、これは議会報告をされたんですか、それとも子育てのこのことのみ意見交換をされたんですか。

長谷川知司委員長 そのときは、議会報告会を行いました。議会報告会というのも分かりやすくということで、紙芝居を作りまして、それをお母さん方にお見せして、議会はこういうものですよという、親しみを持ってもらうための報告をさせていただきました。

高松秀樹委員 何人ぐらい出席されましたか。

長谷川知司委員長 会場によって違いますが、10人前後はいらっしゃると思います。多いところはそれを超えていました。

高松秀樹委員 それはどうやって告知をされたんですか。

長谷川知司委員長 私の記憶ですが、各児童館では未就園児のお母さん方の集いを月に1回から2回されています。そのときに伺っていいですかというお話をして、了解をいただいたところに行きました。

中村博行委員 議会報告会が主ではなかったような気がしています。通常見えていた方からは行きにくいという意見があったと記憶しております。ですから会場については前回どおり公民館とか、あるいは子育て支援センター、学校という話も出ておりましたが、議会報告会に見合った場所というのが基本的にはあるのではないかというような気がしています。

高松秀樹委員 場所ですが、例えば自治会館というのは過去も議論されていると思いますが、過去の議論がどうなったかというのが分かれば教えていただきたい。

長谷川知司委員長 自治会館でやろうという声は確かにございました。その時の意見として、自治会館はその自治会は来られるが、隣の自治会とかは行きづらい。車を置く場所がないのがほとんどだということもありまして、そういうことをクリアするために埴生の中村公会堂というのが確かあったと思います。ここは公会堂といいながら複数の自治会が担当しているんで、そこでやったことがございます。それから厚狭の加藤公会堂。ここも公会堂ですが複数の自治会が利用しているということでしたので、そこでも行ったことがございます。両方とも10名前後ぐらいだったですかね、集まれたのは。一番自治会館で困るのは、ほかの自治会から来られない雰囲気があるのではないかとということと、駐車スペースが問

題でした。

高松秀樹委員 公民館は中学校単位でやっていますよね。最初は必ず動員でしかないと思うんですよ。来てくださいという話でないと市民は来られないと思うんです。そのときに中学校区の場合は範囲が広すぎて、お願いするにしても難しくなってくる。自治会の場合は自治会長にお願いができるということであれば、僕も自治会長ですが、そうなれば自分の自治会にお知らせをするなど、自治会長の権限の中でいろいろ人集めもされるというふうに思っているんですよ。ただし、自治会が三百何十あるんですが、その公平性をどうやって担保するのかは別問題なんですけど、でも以前、白井市長が自治会を回っていましたよね。ほぼ全部の自治会を一人で回られたんじゃないかなと思います。それを考えると、うちはメンバーが22人いますから、振り分ければ可能なのかなという気がします。自治会に行けば、恐らく自治会内の要望、陳情が出てくると思うんですが、ほぼ自治会館はどこも畳で、皆座って、輪になって話すような環境もあるのかなという気がして、そこもよく議論をしながら進めていく。中村委員も言われましたが、いろんな弊害もあるのかなという気もしますが、僕は全部自治会館というのではなくて、6か所回るうちの2か所は自治会館、4か所は公民館等、そういう織り交ぜをしながら浸透していければいいのかなと思っています。

長谷川知司委員長 ほかに場所、回数の意見はございますか。

吉永美子委員 先ほど私は6会場にはこだわらないということをお申し上げしましたけれど、今の意見だと6回はやりたいという声が強いということでしょうか。6回にする根拠は何ですか。以前が6回だったから、次も6回ということでしょうか。逆にもっとやりたいんだったら10回だってあり得ると思いますし、その根拠が知りたいと思います。

高松秀樹委員 会派の中で話したことの一つは、大原則として実施要綱に書いてあるということ。もう一つは中学校区が6校区あり、公平性が担保できるという2点で6会場という話を会派ではしました。

長谷川知司委員長 私がずっとやってきた中では、これにこだわる必要はないんです。ですが、これをベースにしておかないと報告会そのものが1回2回だけで終わってしまうのではないかとということもあって、要綱では6回ですとなっているから、それでいかれたほうがいいと思うんですが、

これにこだわることはないということですね。

高松秀樹委員 会場数の増減については、今までやってこられた議員が6会場
でやったことに関して、どういうふう感じて、どういうふうにしたほ
うがいいのかと思っているのか聞きたいです。

長谷川知司委員長 客観的に申しまして、議員21名を3班に今まで分けてお
りました。ですから6会場あっても担当するのは2会場です。その2会
場で、当初は1日1回ということで夜やっておりましたので、二日出な
くにはいけないということでした。冬の寒いとき、お年寄りとか夜は出
にくいから昼間を入れたこともございます。昼と夜を1日でやったこと
もありまして、同じグループがやれば1日で済むんです。そういうこと
でやって、6会場をこなしたということもございます。これが良いか悪
いかは別として、そのように議会報告会も様々な形に変えてきています。
ほかにあれば。今の説明でいいですか。

中村博行委員 いろいろ試行錯誤してやってきたわけですが、要は参加者が少
ないということに行き当たったわけです。昼夜やったこともあります。
10回という話もありましたが、日程的になかなか難しいと思います。
自治会館という案もありましたが、校区で考えれば、従来やってきたの
が、例えば埴生であれば、埴生公民館でやったら、次は津布田会館とい
うふうに、各校区の2か所を選んで交互にやってきた。それは参加され
る方からすれば、今回はうちのほうに来るよね。今回は来ないよねとい
うような思いがあって、それなら行かなければということで、分かりや
すかった面もあったとは思いますが。しかしながら、残念なことに参加者
が非常に少なかった。この辺りが一番問題なのではないかと思えます。
場所も参加者に関わるものですが、回数については参加者を増やすほか
の要因を考えて対応したほうがいいんじゃないかという気がします。

長谷川知司委員長 参加者を増やすということでは平日ばかりではなく、
土日もやったらどうかということでやりましたが、逆に土曜日にしたら
少なかったです。土曜日は休みたい、遊びに行きたいという人が多いの
かもしれませんね。集まってもらえなかったです。

高松秀樹委員 土曜にしたからといって、聞きに来る市民にとって、どっちに
行きたいかという話だと思うんですよ。選挙の投票率と同じ話ですよ。ね。
市議会の報告会が面白い、議員と話もできて、ざっくばらんですよ、い

ろんな話を聞いてくれますという話だったら、遊びに行くのを置いて、こっち行っておかなくてはいけないよなという、つまりそういう報告会にしていかななくてはいけないと思うんです。回数や場所、時間はその次に来る要因なのかなと思います。もちろん出やすい時間、出やすい場所は決める必要がありますが、本質論のところを詰めていかないと、結果、一生懸命議論したけど、人数変わらなかったよねという話にもなりかねないのかなという気はします。

長谷川知司委員長 本質が大事ということですので、議会報告会の中身をどうするかをしないといけないかなと思いました。今までは3常任委員会が議会報告をして、それが大体20分程度として1時間。それから市民の方からの質疑等を聞いたりして、その他何かないですかというのが15分ぐらいだったです。そういう形でしたから、伊場委員が言われました、全体で議会報告会をするのであれば30分。30分であれば3常任委員会ではちょっと無理かなということがございます。中身としても議会報告をして、その後の意見交換とかが、それもいるなというのであれば3常任委員会を報告のときは1常任委員会か目玉の委員会の報告にして、あとの意見交換を大事にして、そこに興味があるように、市民の方が来られるようにするというのが一つの考えかとも思いますが、これについて皆さん意見があればお願いします。

高松秀樹委員 新人議員の方は分かると思うんですが、市民からすれば議会は敷居が高いんですよ。だから市議会議員に対してでも、先生と言われるんですよ。敷居が高いと物が言えないんですよ。つまり、物が言えないということは、一方的に受身になってしまうんです。議員側のプレゼンがワイドショーのコメンテーターのように上手ければ、それは見ますよ。今はそんな状況ではないですよ。ということは受身でなおかつ面白くない。意見どうですかと言われて、敷居の高いところで手を挙げて、物を言う市民なんて非常に少ないですよ。同じ方が言われるという状況です。それを回避するには、伊場委員が持ってきた、例えばですが、小さいテーブルに市民が3人、議員が一人入る。議会報告会は最初に全部説明し、そこでは質疑応答は受けず、このテーブルで、今こういう説明をしましたが何かありますかとか、報告されたことに対する意見交換でもいいし、違うことに対しての意見でも、それを少人数でやっていく。議員が6人も7人も前にいるわけですよ。後には傍聴議員までいるわけですよ。周りを囲まれて、市民は窮屈な思いで早く終わらないかなというような状況なので、その環境をよく考えながら、特に新人議員がいら

っしやいますので、本当にどういうふうに今まで見られたのか、そしたら、どういうふうにしたら市民が来られる環境になるのか、発言できる環境になるのか、気持ちがある程度安らぐ環境になるのか、そういうことを考えると伊場委員と、うちの会派が言ったようなスタイルがいいのではないかという気がします。

長谷川知司委員長 ほかに意見はありますか。やってみて修正はできますから。確かに今言われましたように、前に6人ぐらい、いつも議員がネクタイを締めているんですね。ある公民館で市民が来られたけど、帰られたです。これは敷居が高いという雰囲気ですね。普段着で来られたけど、こっち側がきちんとした格好でしたら、どうしても市民も肩を崩すわけにはいかないから、顔だけ出して帰られたです。ちょっと寂しかったですけど、聞いたら、「私はこんなところに来るような人間ではない」とか言われて、謙遜されていらっしやいましたけど、高松委員が言われましたように、敷居を下げるということも大事だなと思います。

中村博行委員 テーブルの設置の仕方ですが、円を描くようにしたこともありますが、逆に席が決まっているのではないか。入ったとたんは無理だという意見もあって、円座が受け入れられなかったという例もあったということをお紹介しておきます。

松尾数則委員 いろんな意見があって、それをいろいろやってみれば、人気が出れば、それをすればいいと思っているんですが、うちの会派で出しているように、四、五人で、出席者同士で話し合ってもらい、それを議員が聞くというような流れ。そうするといろいろその辺の意見をまとめれば、これからの議会活動に役に立つような何かが得られるんじゃないかなという気もしています。最近そういう講習会もはやっています。

高松秀樹委員 松尾委員の補足をします。出席者同士の話ですけど、議員が一人入って、それがファシリテーターとして進行していく。場合によっては市民同士で話をされてもいい。それを議員がまとめていくというのを松尾委員が今言われたと思いますので。

長谷川知司委員長 その案はいいんですが、議会報告会の報告をどうするかを先に考えていかないといけないと思います。

高松秀樹委員 それは先ほど申しましたように、まず報告をするんですよ。今

までは報告した後に、その場で、今の報告に対して意見ありませんかというやり方をしたでしょ。報告をして、小グループに分かれて、ファシリテーターの議員が報告内容をペーパーで渡すわけですよ。こういう報告をしましたが、何か意見はありますかと。つまり、今までは大きいところでやっていたけど、小さいところになるので、ここが分からなかったとか、気楽さの中で意見交換ができるのではないか。決して報告しないという話ではないです。報告をきちんとした上での話をしましょうということですよ。

奥良秀委員 報告会をどうやっていくかなんですけど、委員長は先ほど各定例会のメインのものを言えばいいという発言がありましたけれど、そうではなくて、各常任委員会である程度箇条書きなど、市民が見やすいようなペーパーを一枚ずつぐらい配って、その中でメインはこういったものでしたよというふうなもので、簡素に分かりやすく報告すれば、私はいいじゃないかと思います。高松委員が言われるとおりでとは思うんですけど、三、四人で分かれて、ざっくばらんに話をして、ペーパーが各常任委員会で3枚あるとしたら、その中でどれに興味がありましたかねということをごんごん進めていけば、また新たにいろんな話題が出てくると思います。ただ、懸念するのが、例えば4人ぐらいの市民の方と一人の議員で話した場合、話題が偏る。返答の仕方もAという答えはないと思うんですよ。いろんな言い方があると思うので、AなのかAダッシュなのかAプラスなのかというのがあがると思うので、そこはその会の代表の方が、見回りの先生じゃないですけど、それがぐるぐる回って、こういったときにはどういうふうに説明すればいいでしょうかというような、アドバイザー的な議員、若しくは常任委員長が回って、解説してもらったほうが、より分かりやすいですし、的確な答えが出るんじゃないかと思います。

長谷川知司委員長 私が心配していたのは最初の30分ぐらいしか報告会の時間がないということで、頭の中ではパワーポで今まで説明していたので、ちょっと時間が足りないのかなと思っていたんですけど、そうではなくて、ペーパーで簡単に渡して、30分で3常任委員会なりが説明できてという状況にするということですね。

奥良秀委員 私も1回しか議会報告会に出ていないので何とも言えないんですが、確かに丸テーブルで、円形のところに座って、はっきり言ってパワーポイントと言われてはいますが、自分が見たときには、それを全部読

まれるだけなので、それでいいのかなということは感じていました。だから、あえて、そういったことをしなくても、ペーパーでお配りして、興味があるという方は見られて、分かるのかなと思います。分からなければ、質疑をそこではしないで、分かれていただいて、話を、私はこういうことが知りたいんだよねとか、こういうことが分からないんだよねということを言ってもらえれば、その場その場でいろんなお話が進んでいくから、私はいいと思います。

吉永美子委員 議会報告は毎定例会、議会のことを言うわけだけれど、3常任委員会だけとは限らないし、場合によっては5ということがあるので、時間の配分を考えていかないといけない部分があるでしょうね。その議会報告会ごとに、この委員会の中で決めていかないと、意見交換する時間はある程度作らないといけないけど、でも議会報告会は当然するよねとなると、後の部分が短くなっていく。そのときに、どこまでやっていくとか、ケース・バイ・ケースでいつもやっていかないと、これは難しいなと思ったんです。前も申し上げましたけれど、結果というのは紙で配って、例えば、この議案についてはこうでしたよというのは今まで配っているから、多分それは次もやるんじゃないかなと思うんですけど、こういうふうにして賛成多数で可決となりましたよとか言うと、決まったんかねという感じよりも、どういうふうに議論して、最終的にはこうなったという、そこをどこまで市民の要望に答えられるのかなということを考えると、やっぱり限られた時間でタイトになるなということを考えています。だから、時間的に今までは基本1時間半ということでやってきましたけれど、2時間にしたら難しいですかね。最初から基本2時間というのは長すぎるんですかね。

長谷川知司委員長 それは難しくないと思いますよ。私たちが2時間でというスタンスで行けば。ただ、市民が2時間飽きないように、きちんとしていただかないといけないですからね。私たちがそれをしないといけないから。

中村博行委員 議会報告だけを先にやってしまうと。従来は総務が発表したら、総務に関わる議案の質疑を受けていたと。それを省いてしまうと、各委員会が5分なら5分というふうに決めれば、30分以内に報告は終わると思うんですよ。あと十分、丸1時間ぐらい、先ほど出ていたことを参考にして申し上げますと、市民の中で報告会、個々の発表について、どういう考えを持っているかというのを、市民だけの会話の中で拾い上げ

てこれるものがあるのではないかという気がしますよね。例えば理科大の発表があったときに、お金の使い方がどうなんだろうねというのを市民の中で話されて、それをサイドで聞いている議員が答えるところは答える。持ち帰るところは持ち帰るといような形であれば、1時間半以内でやれるのではないかという気がします。

奥良秀委員 吉永委員さんが言われたとおり、私も1時間半が2時間というのは特に問題がなくて、例えば、会話が弾まないとか、ある程度決したら、1時間半を過ぎて、打ち止めで終わってもいいのかな。その代わり、盛り上がれば、各常任委員会プラス特別委員会もできていますので、そういった内容を踏まえていくと、2時間ぐらいあっても、足りないときもあると思いますけど、あくまで2時間で終えさせていただくという形がいいんじゃないかと思います。

中村博行委員 基本的には時間にこだわることはないと思うんです。例えば1時間ぐらいで終わったケースはあります。一つのベースが1時間半ないし2時間以内ぐらいということで設けていけば、別段、時間にそうこだわる必要はないかという気がします。

吉永美子委員 私が申し上げたのは、これまで司会が言うのが1時間半を目途としていますという言い方をしているから、最初から2時間を目途としていますという意味で申し上げたんですよ。最初から1時間半というのと、1時間半で終わらせないといけないのかなというふうに市民に入るといけないので、30分伸ばして、それが1時間で皆がいいよとなれば1時間で終わらせていいわけで、そこの辺は2時間ベースというふうにこちら側がそういうふうにやっていったほうが、時間にゆとりができるかなと思ったので申し上げました。以前から申し上げていますが、前のときこんな意見が出たということに対して、担当委員会でこういうふうに持っていったよというのを、その方が来ようと来まいが、きちんと報告をしてほしいというのを前の委員会のときに私は強く申し上げてきましたよ。司会のほうから言ってもらったりして、前回のときにこういう意見が出て、それに対して委員会として調査をして、執行部から聞いて、こういうふうな話になっておりますという、それを戻していくことは絶対にやってほしいなと思っています。その方が来ようと来まいが、聞きっぱなしではなくて、こういうふうにいただいたことを執行部に持って行って、皆さんに戻しますということは、その時間も少しは、今後意見交換することの時間が長ければ長いほど、いろんなことが出てくると思

うので、その辺、きちんと戻すということは、毎回きちんと、今後やってほしいなと思います。やはりシステムがきちんと、私になったときにできていなかったから、だから、ちゃんと戻すということをすべきじゃないですかということは何回も申し上げましたよね。そこは今回の広聴委員会でも、それはすごくやってほしいなと思っています。その時間はほしいです。

長谷川知司委員長 いろいろな意見が出ておまして、私も頭を冷やさないとまとめられませんので、ここで10分休憩します。15分から再開します。

午前11時 5分 休憩

午前11時15分 再開

長谷川知司委員長 委員会を再開します。今までの話を確認します。本質についての確認です。報告を委員会ごとに5分くらいでやっていただいて、30分以内で各委員会の報告が終わるようにして、その後、グループに分かれて、議員も入って、その中で意見を聞いたり、ディスカッションしたりするということですが、具体的にどうするか、テーマとかがありますが、そこまでは間違いないですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）次に、議員の責任としては、30分以内に報告を終わらすということは、きちんとしないといけないと思います。残り1時間をどのようにするかということですが、これについて皆さんの意見があれば、再度お聞きしたいと思います。

伊場勇委員 これからの進め方についてですが、広聴特別委員会の中で部会を分けたらどうかというのが一つあります。一つはPR部会。どういうふう集客をしていくのかということ、この中で部会として分けます。もう一つは企画、中身についての部会を作って、そこでしっかり議論していただくという部会を作ることになったらどうかと思います。

長谷川知司委員長 伊場委員から部会を作ってはどうかという提案がございました。それについてはどうでしょうか。

高松秀樹委員 賛成です。そうなると作業部会だと思うんですが、どういった作業部会があるかを抽出した上で、きちんとやっていったほうがいいのかなという気がします。まず、作業部会に賛成なのは、例えば今からPRをしていく上で、前回も出たチラシ。チラシが硬いよねという話もありました。そういうのを全体でやると、いろんな意見が出て、收拾がつかなくなって分かりにくいので、ある程度責任を部会に持たせて、それを最終的に、この委員会の中で修正していくという形にすれば、スピード感が出てくるのかなという気がします。最初に作業部会をするのであれば、どういう作業部会があるのかというのを抽出していく必要があると思います。

長谷川知司委員長 作業部会を作ることの賛成意見がありました。それではよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）次に、どのような作業部会を持つかということですが、先ほど、意見としてPRする部会、それから中身を考える企画部会という二つがございました。ほかに意見がございましたか。

宮本政志副委員長 前回の委員会で、分ける作業部会の内容としては、広報活動とかPR活動、あるいはチラシ作成に当たる、あるいは開催場所の準備や選定。それから所要時間を考えたり、報告会の内容を考えたり、説明方法を考えるとかいう意見も出ていたので、今まで経験された議員さんの中で、大体これぐらいの部会と内容に分けたほうがいいんじゃないかというのをお聞きしたいんですが。

杉本保喜委員 前回も意見が出ましたですね。部門別にやるほうがいいんじゃないかと高松委員が提案されたと思うんですが、私もいい考えだと思います。人を集めるにはどうするかという企画ですよね。PRと企画を一緒にするのか。PRは特化すべきだということであれば、それはそれでいいと思うんです。あとは報告会進行担当という感じですよ。それは時間配分とか、いろいろあると思うんです。それから常任委員会や特別委員会の中で、これは伝えておかなくてはいけないという項目が入ったときには、それはほかの委員会のほうに、ちょっとここは制限時間というか、持ち時間を少なくして、こちらのほうにウェイトを置こうとか、そういうような進行の担当のようなものを入れればいいかなと思いますね。

長谷川知司委員長 広聴特別委員会は全員で11名です。委員長、副委員長が二人ですので、部会としても、そんなに数多くの部会を作ると、また、まとめていくのが大変ですので、二つか三つにしたいんですが、いいですか。二つであれば、人を呼ぶようなPRする部会と企画する部会ですかね。作業部会の分け方は、今、私も理解できていないんですが、何か皆様方で意見があれば。

杉本保喜委員 PRの中に、会場の設定についても含めて検討していったほうがいいんじゃないかなと思います。

長谷川知司委員長 これにつきましては、私と副委員長で部会の案を作って、皆様方に次回、提案していきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）作業部会のメンバーの案もよかったら考えさせていただきたいと思います。皆様方の宿題として、ネーミングを各自一つは提案していただくように宿題とさせていただきます。どういう形でもいいです。主題があって、副題があってもいいですし、一つでもいいですから、それを皆様方、宿題としておいてください。今日の委員会は方向性が出たということで、今日はこれで終わりたいと思います。広聴特別委員会を閉会いたします。

午前11時25分 散会

平成30年1月26日

広聴特別委員会委員長 長谷川 知司